

## 令和3年度 自己評価表

### 1. 学校の教育目標

基本理念：歯科医療の専門知識と技術の習得を行うとともに、豊かな人間性を育み、学生自らが歯科衛生士としての自覚を持ち、成長する力を身につけるよう導く。

教育目的：

- 1、医療人としての自覚をもった歯科衛生士の育成
- 2、地域保健に貢献できる歯科衛生士の育成
- 3、歯科衛生士を生涯の職業とする確固たる意志をもった人材の育成

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1、歯科医療の大切さを内外に広く知らしめる
- 2、社会常識を十分に理解し、自己管理能力を身につける。留年・退学者の減少
- 3、優秀な人材の充足を確立するとともに、歯科衛生士国家試験合格率100%の安定化を達成する

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

#### ①課題

- 1、学生、特に新生入生に対しての医療人としての更なる教育の強化。
- 2、社会経済の急激な変化に今後どのように対応するかの明文化。
- 3、学校の理念・目標を教職員、学生、保護者が十分に理解し、業界のニーズに即

した人材育成が必要との共通認識を持つ。

②今後の改善対策

- 1、新入生に歯科医療の重要性を保護者も含め機会あるごとに伝える
- 2、今の業界が求める人材のイメージを明確にする為に、歯科医師会との交流の場をさらに充実させて、それに沿ったカリキュラム編成をしていく。
- 3、社会人としてのマナーの指導を頻繁に行い、身だしなみ等の確認作業を行う。
- 4、急激な社会環境（医療も含め）の変化に即応できる体制作り

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事で給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

①課題

- 1、教職員に対する運営方針、レポートラインの周知。
- 2、業界や地域社会に対して、より充実したコンプライアンス体制が必要である。
- 3、更なる業務の効率化を図り、学生へ還元する。

②今後の改善対策

- 1、専任会議、教務委員会の活用、会議の在り方の見直し
- 2、業界や地域社会に対して、時代に応じた具体的なコンプライアンス体制を整備していく。
- 3、学生管理ソフト導入の活用の拡大、実績の検証

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
・職業教育に対する外部関係からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・関連分野に関する視点を取り入れた効果ある対策
- ・専任教員の更なる資質の向上 (講習会受講)
- ・教育課程の編成・実施方針を運営・職員が詰め切れていない
- ・研修受講後の取り組みができていない

② 今後の改善対策

- ・関連分野の意見を取り入れたカリキュラムの作成 (業者の特別授業など)
- ・歯科医療現場に即した教材

- ・教育理念を明確にし周知する
- ・関連施設などとの連携や交流を増やす
- ・専任教員研修への積極的な参加
- ・カリキュラム策定時に意見交換をする。

③特記事項

(4) 学修成果

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

- ・国家試験に全員合格させること
- ・卒業後の勤務先の異動の把握
- ・卒業後の研修支援、交流の機会を増やす

② 今後の改善対策

- ・国家試験対策の充実のため、早めの能力確認試験等を実施。
- ・学業不振者に対するきめ細やかな個別指導。(専任の張り付き指導)
- ・関連分野と協力し、卒業後の研修支援を行う
- ・専任の研修会、学会参加等教育訓練の強化

- ・卒業生との交流の場を設け、情報収集する。(オープンキャンパス参加)

- ・在校生に、現在活躍している卒業生との交流の場を作る
- ・現場で働くDHの声を聴く。卒業後1～2年の卒業生に来校してもらい、学生時代に足りなかった点や、良かった点、状況など現場で働くDHの声を聴くことで、学生の意欲の向上に繋げる
- ・既卒生で国試未合格者に対するフォローアップ

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・卒業生に対する支援体制（転職相談、スキルアップ、）
- ・一般教養に関する更なる充実
- ・学生との対話する時間の不足の解決策
- ・マナー指導の強化
- ・既卒生への実習指導（場所の提供・専任の対応）

② 今後の改善対策

- ・卒業生に対して学校設備を活用したスキルアップ
- ・学生に対する一般教養に関する指導（外来講師の充実）
- ・マナーの指導を強化する（歯科医療現場の講師の採用）
- ・「進路指導室」など学生が気楽に相談できる場所（安心して話せる場所）を用意する

③特記事項

新型コロナウイルス禍など公衆衛生における学生の安全・安心を最優先した体制（設備、人員、援助）作りを常に意識しておく。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・毎年改修等を行っているが、不十分な面もある。
- ・図書の充実
- ・学内のインフラの整備

② 今後の改善対策

- ・予算の確保
- ・床・壁などの改修
- ・学生の為のより良い図書を増やす。
- ・床クロス、水回りなどの改修。

③特記事項

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 3 2 1

① 課題

- ・学校ホームページの充実
- ・広範囲な地域への学生募集活動
- ・男子学生の受け入れの検討

② 今後の改善対策

- ・新しいホームページにより、希望者へより多くの情報を伝える。
- ・遠隔地でのガイダンス参加、高校訪問活動の実施で定員の充足を図る。
- ・国の方針に沿った学生受け入れ方針の策定

③ 特記事項

- ・進路に迷う学生・社会人に、適切で正確な情報伝達（動画配信等）を行い  
歯科医療のすばらしさを理解してもらう。

(8) 財務

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財掛基盤は安定しているといえるか	4 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 2 1

① 課題

- ・増改築なども含めた運営方針の具体策に着手する。
- ・PC 関連機器の新規導入
- ・ロッカー、靴箱等備品の更新

② 今後の改善対策

- ・中長期的な運営方針の具体化
- ・感染予防のための備品購入予算

③ 特記事項

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・学校関係者評価の充実

② 今後の改善対策

- ・顧問先などと法令や、新制度への対応策をはかる
- ・定期的な避難訓練や設備機器の安全点検の実施



③ 特記事項

[ ]

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 3 2 1

① 課題

[ ]

- ・専門性を活用し、障害者施設や高齢者施設などを含めた地域貢献
- ・講師派遣に適した人材育成

② 今後の改善対策

[ ]

- ・障害者施設や高齢者施設などへの事業に対する積極的な支援
- ・高等学校、中学校から依頼がある歯科医療の講義への協力
- ・企業との連携により、地域の口腔ケア改善に貢献する。

③ 特記事項

[ ]

(11) 国際交流 (必要に応じて)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4 3 2 1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられ	4 3 2 1

ているか	
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4 3 2 1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 2 1

① 課題

- ・次年度、外国籍学生を受け入れるため、十分な修学の機会を提供する。

② 今後の改善対策

- ・外国籍学生の学習成果の確認を定期的に行う（専任からの問いかけ）

③ 特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回の自己評価を行った結果は、概ね「適切」といえるものであった。

教育活動等においては、福岡県南部地域における、唯一の歯科衛生士養成機関としての本校の存在意義を十分に自覚し、より充実した教育環境を毎年整備している。

設備、備品などの拡充については、遅滞することなく対処できている。今後は施設の老朽化対策も含めて、単発的でなく中長期的な視野で教職員とともに検討し、即応できる体制作りを行っている。

運営に関しては、歯科医師会立という組織構成において、担当役員が交代する場合もあるため、年度ごとに、教育理念や運営方針を周知確認し、改善すべき点については毎度関係者一同で検討している。

教育に関しては、専門教育や一般教養に関する知識だけでなく、社会に出てからの基本的なマナー等を習得させることができおり、よりよい結果に導くことができたと考えられる。今後は、卒業生との交流や多職種との職業の関わりなど、人的交流で学ぶ機会を更に増やし、歯科衛生士としてのみではなく一社会人としての自覚を育てていく。また、医療系他職種との連携に関しても、早い時期に学ばなければならないと考えている。

国家試験合格については、模擬試験や特別講義などの国家試験対策が十分であるが、さらに、夏季休暇後には担任、副担任の6名体制で、学生を少人数のグループに分け知識の底上げを行っている。また、卒業試験のあり方と、国家試験受験資格の意味を、教員、学生ともに認識し、学業優先の生活環境を整えるために保護者とも密接な支援体制を確立し、合格率100%を目標にして努力していきたい。

学生募集については、地域性に主体を置きながらも、九州各地に募集範囲を広げ安定した学校運営に力を入れている。さらに、教職員間の意思の統一を行い、教育成果の評価報告を含め、学生の育成方法について、受験者側への十分な周知が必要と考える。今後とも、歯科医師会立という背景を考慮し、地域に貢献できる人材の輩出を目的に募集対策を行っていく。

今回の自己評価の結果から、問題意識を常にもち、よりよい改善策を関係者全員が有意義に検討し、教育現場としての環境を整えることで、学生に安定した学校生活を提供し、さまざまな人的交流の機会を与えることで、確固たる職業意識を持った歯科衛生士の育成に繋げたい。